

田辺三菱製薬株式会社

2015年度第2四半期 決算概要

(2015年4月1日～2015年9月30日)



田辺三菱製薬

2015年10月30日

取締役 執行役員 経理財務部長

田原 永三

2015年度第2四半期 決算概要

(平成28年3月期)

売上高

2,017億円（対前年同期比 +1.4%）

営業利益

435億円（対前年同期比 +24.5%）

親会社株主に帰属する
四半期純利益

291億円（対前年同期比 -10.4%）

トピックス

- ◆ 営業利益は、第2四半期累計としては過去最高益を達成
- ◆ ジレニア、インヴォカナのロイヤリティが伸長
- ◆ バイオジェン社とMT-1303のライセンス契約締結を発表（9月）
- ◆ アムジェン社へTA-8995の特許・ノウハウ譲渡を発表（9月）
- ◆ リジェネロン社とファシヌマブの協業契約締結を発表（10月）
- ◆ アラガン社のカリプラジン（MP-214）が、米国で1型双極性障害を伴う急性躁疾患及び統合失調症で承認取得（9月）
- ◆ レミケードについて、腸管型・神経型・血管型ベーチェット病の追加適応を取得（8月）
- ◆ メディミューン社とがん治療における抗体薬物複合体に関する共同研究契約締結を発表（9月）

2015年度第2四半期 決算概況

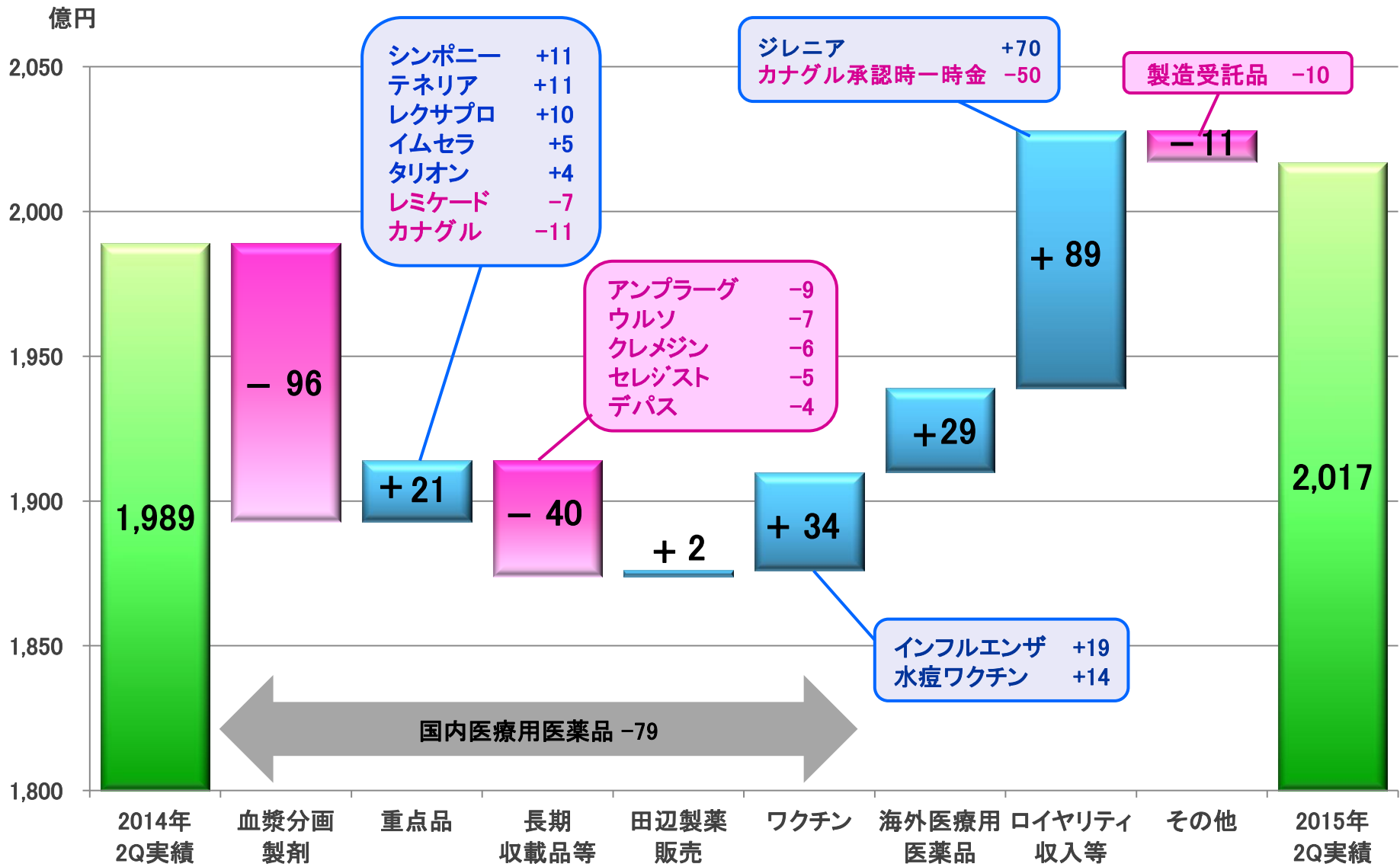
	2015年度	2014年度	増減		※上期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	2,017	1,989	+28	+1.4	1,915	105.3
売上原価	732	782	-50	-6.4	705	103.8
売上原価率	36.3%	39.3%			36.8%	
売上総利益	1,286	1,207	+79	+6.5	1,210	106.2
販管費	850	858	-7	-0.8	930	91.4
営業利益	435	350	+86	+24.5	280	155.4
経常利益	433	355	+79	+22.2	280	154.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	291	325	-34	-10.4	190	153.4

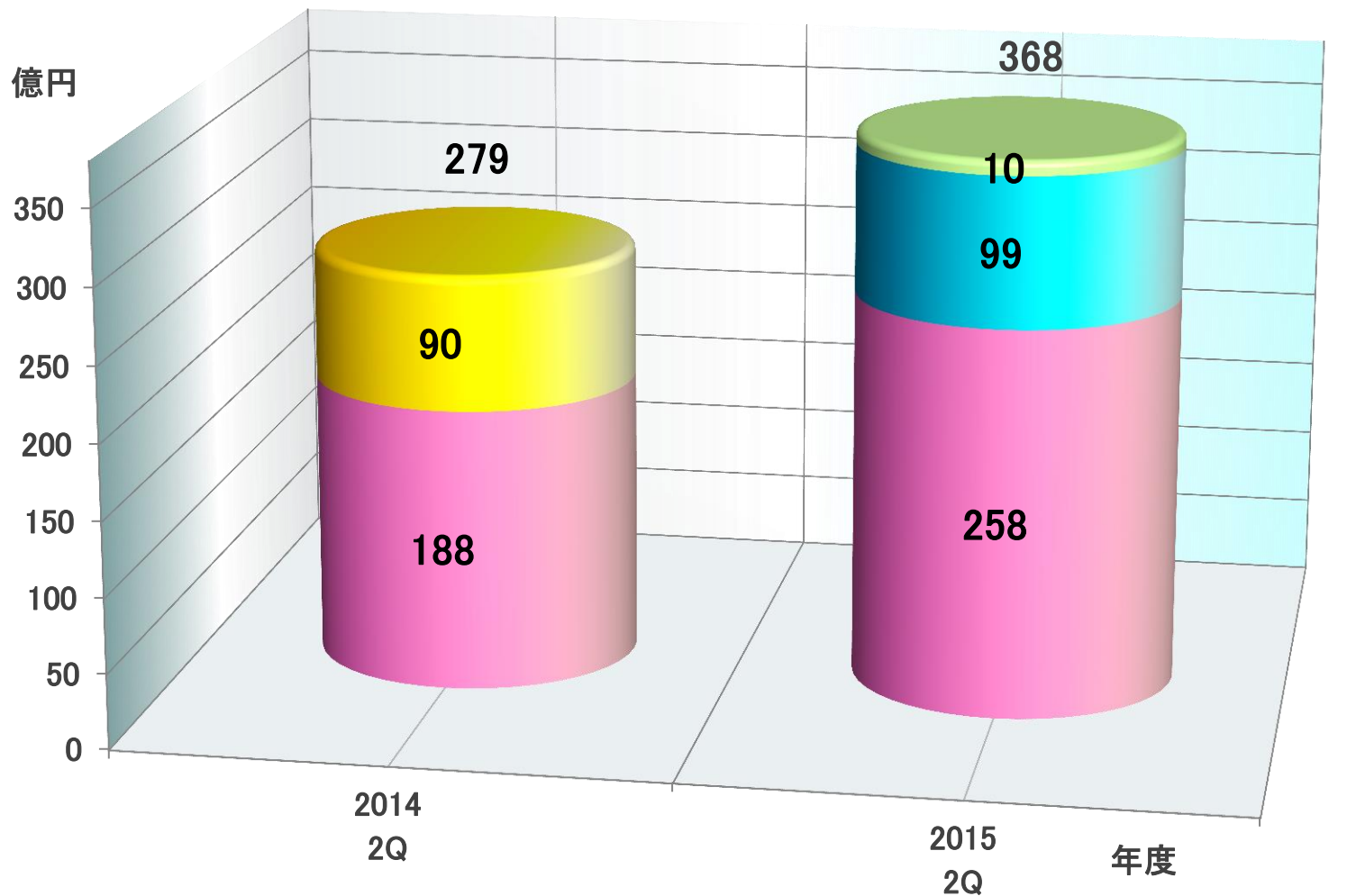
※上期予想:2015年5月8日、2014年度決算発表時に公表した予想値

当社は、2015年9月30日に、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益について上記予想を修正して公表

売上高の増減

【2015年度第2四半期 決算概要】





■ ジレニア

■ ※インヴォカナ

■ その他(インヴォカナ含む)

■ その他

※単剤および合剤の合計

売上原価・販管費

【2015年度第2四半期 決算概況】

	2015年度	2014年度	増減		※上期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	2,017	1,989	+28	+1.4	1,915	105.3
売上原価	732	782	-50	-6.4	705	103.8
売上原価率	36.3%	39.3%			36.8%	
売上総利益	1,286	1,207	+79	+6.5	1,210	106.2
販管費	850	858	-7	-0.8	930	91.4
研究開発費	333	319	+13	+4.2	395	80.8
人件費	230	230	-0	-0.1	230	100.0
のれん償却額	53	54	-1	-2.5	53	99.2
その他	235	254	-19	-7.4	252	93.3
営業利益	435	350	+86	+24.5	280	155.4

※上期予想:2015年5月8日、2014年度決算発表時に公表した予想値
 当社は、2015年9月30日に、売上高、営業利益について上記予想を修正して公表

営業外損益・特別損益

【2015年度第2四半期 決算概況】

	2015年度	2014年度	増減		※上期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
営業利益	435	350	+86	+24.5	280	155.4
営業外損益	-2	5	-7	-140.1	-	
経常利益	433	355	+79	+22.2	280	154.7
特別利益	5	136	-131	-96.4		
固定資産売却益	3	119				
投資有価証券売却益	2	11				
関係会社株式売却益	-	6				
特別損失	7	27	-20	-74.0		
減損損失	7	9				
投資有価証券評価損	-	1				
関係会社整理損	-	14				
その他	-	2				
親会社株主に帰属する四半期純利益	291	325	-34	-10.4	190	153.4

※上期予想:2015年5月8日、2014年度決算発表時に公表した予想値

当社は、2015年9月30日に、営業利益、経常利益、四半期純利益について上記予想を修正して公表

2015年度 業績予想

(平成28年3月期)

2015年度 通期業績予想修正

売上高、売上総利益、営業利益

	2015年度				2014年度		
	修正予想	当初予想	増減		実績	※増減	
	億円	億円	億円	%	億円	億円	%
売上高	4,180	3,960	+220	+5.6	4,151	+29	+0.7
売上原価	1,500	1,470	+30	+2.0	1,696	-196	-11.6
売上原価率	35.9%	37.1%			40.9%		
売上総利益	2,680	2,490	+190	+7.6	2,455	+225	+9.2
販管費	1,860	1,815	+45	+2.5	1,784	+76	+4.3
研究開発費	760	740	+20	+2.7	696	+64	+9.2
人件費	470	460	+10	+2.2	468	+2	+0.5
のれん償却額	105	105	-	-	109	-4	-3.8
その他	525	510	+15	+2.9	511	+14	+2.7
営業利益	820	675	+145	+21.5	671	+149	+22.1

※2014年度の増減は修正予想との比較

2015年度 通期業績予想修正

主要製品売上高

	2015年度				2014年度		
	修正予想	当初予想	増減		実績	※増減	
	億円	億円	億円	%	億円	億円	%
国内医療用医薬品	2,966	2,946	+20	+0.7	3,239	-274	-8.4
重点品合計※※	1,178	1,276	-98	-7.7	1,157	+120	+10.4
レミケード	677	707	-30	-4.3	706	-30	-4.2
タリオン	169	171	-2	-1.4	160	+9	+5.4
テネリア(旧スキーム)	37	96	-59	-61.7	62	-26	-41.0
テネリア(新スキーム)	99	非開示	-	-	非開示	-	-
シンポニー	126	133	-7	-5.5	105	+21	+20.2
レクサプロ	104	105	-1	-0.5	80	+25	+30.9
イムセラ	41	38	+3	+7.9	32	+9	+26.7
カナグル	25	26	-1	-4.7	12	+13	+114.4
ワクチン	326	269	+57	+21.3	303	+24	+7.9
インフルエンザ	112	79	+33	+42.0	74	+38	+51.9
テトラビック	74	71	+3	+4.3	75	-1	-1.6
水痘ワクチン	61	44	+17	+39.3	72	-10	-14.4
田辺製薬販売	140	144	-4	-2.7	136	+4	+3.0
ロイヤリティ収入等	896	702	+194	+27.7	604	+293	+48.5
ジレニア	非開示	非開示	-	-	439	-	-
インヴォカナ	非開示	非開示	-	-	98	-	-

※2014年度の増減は修正予想との比較

※※ テネリア(新スキーム)を除外した合計

2015年度 通期業績予想修正

営業利益～親会社に帰属する四半期純利益

	2015年度				2014年度		
	修正予想	当初予想	増減		実績	※増減	
	億円	億円	億円	%	億円	億円	%
営業利益	820	675	+145	+21.5	671	+149	+22.1
営業外損益	-10	-5	-5		5		
経常利益	810	670	+140	+20.9	677	+133	+19.7
特別損益	-135	-75	-60		-50		
親会社株主に帰属する当期純利益	460	405	+55	+13.6	395	+65	+16.4

※2014年度の増減は修正予想との比較

2015年度の取り組みに対する進捗

A decorative horizontal bar with a blue-to-teal gradient, starting with a solid blue on the left and fading to a light teal on the right.

独自の価値を、一番乗りで！



地図の無い場所に道を描き、
前に向かって進んで行く

パイプラインの状況(2015年度上期の進捗)

申請・承認

製品名 (適応症)	2014年度決算発表時 のステージ (地域)	今期の進捗
タリオン (小児適応)	部会通過/4月 (日)	承認(5月)
ラジカット (ALS)	申請中 (日)	承認(6月) 米国申請準備中
レミケード (腸管型・神経型・血管 型ベーチェット病)	申請中 (日)	承認(8月)
レミケード (難治性川崎病)	P3 (日)	申請(5月)

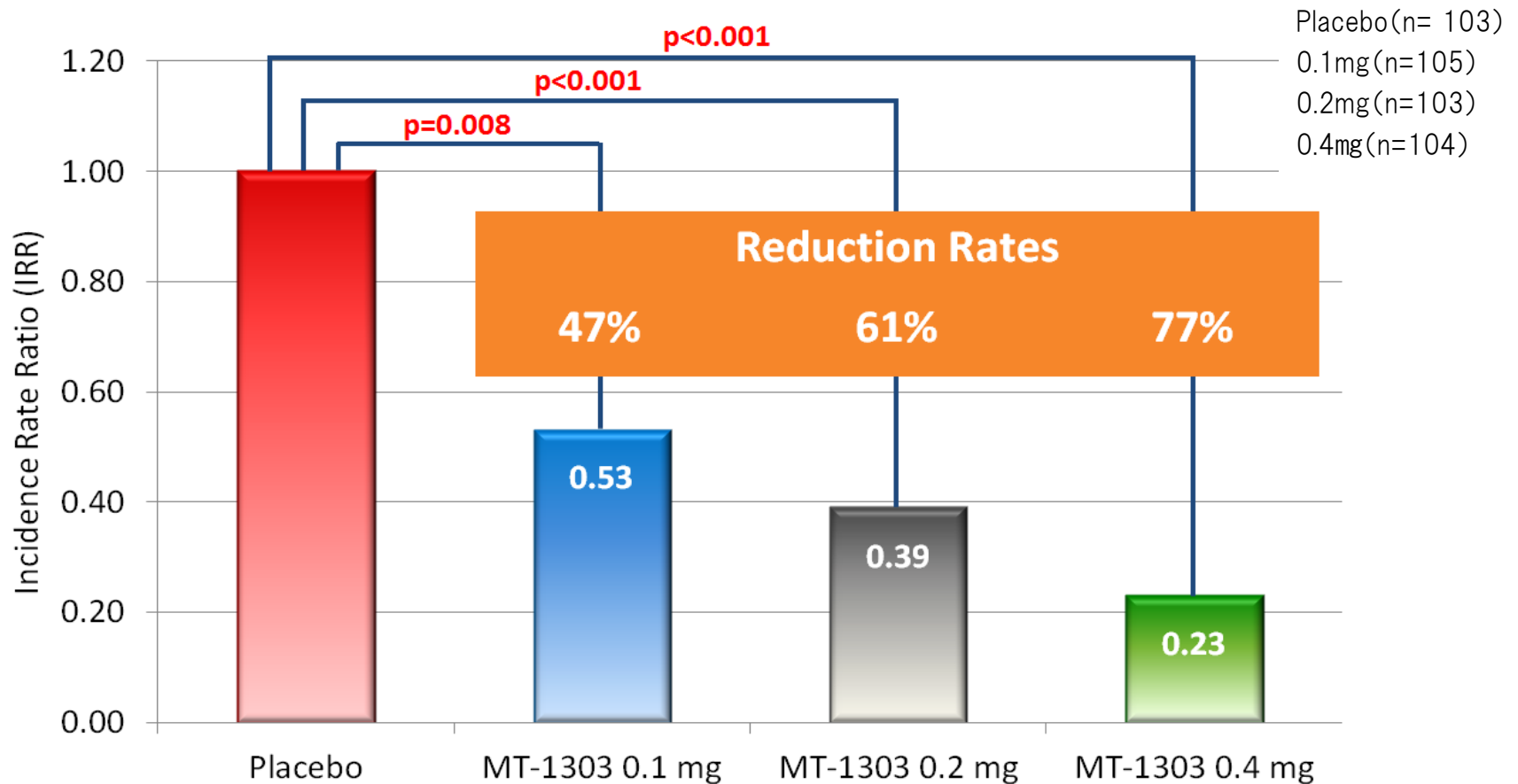
希少疾病用医薬品 「独自の価値を一番乗りで！」

パイプラインの状況(2015年度上期の進捗)

臨床試験中

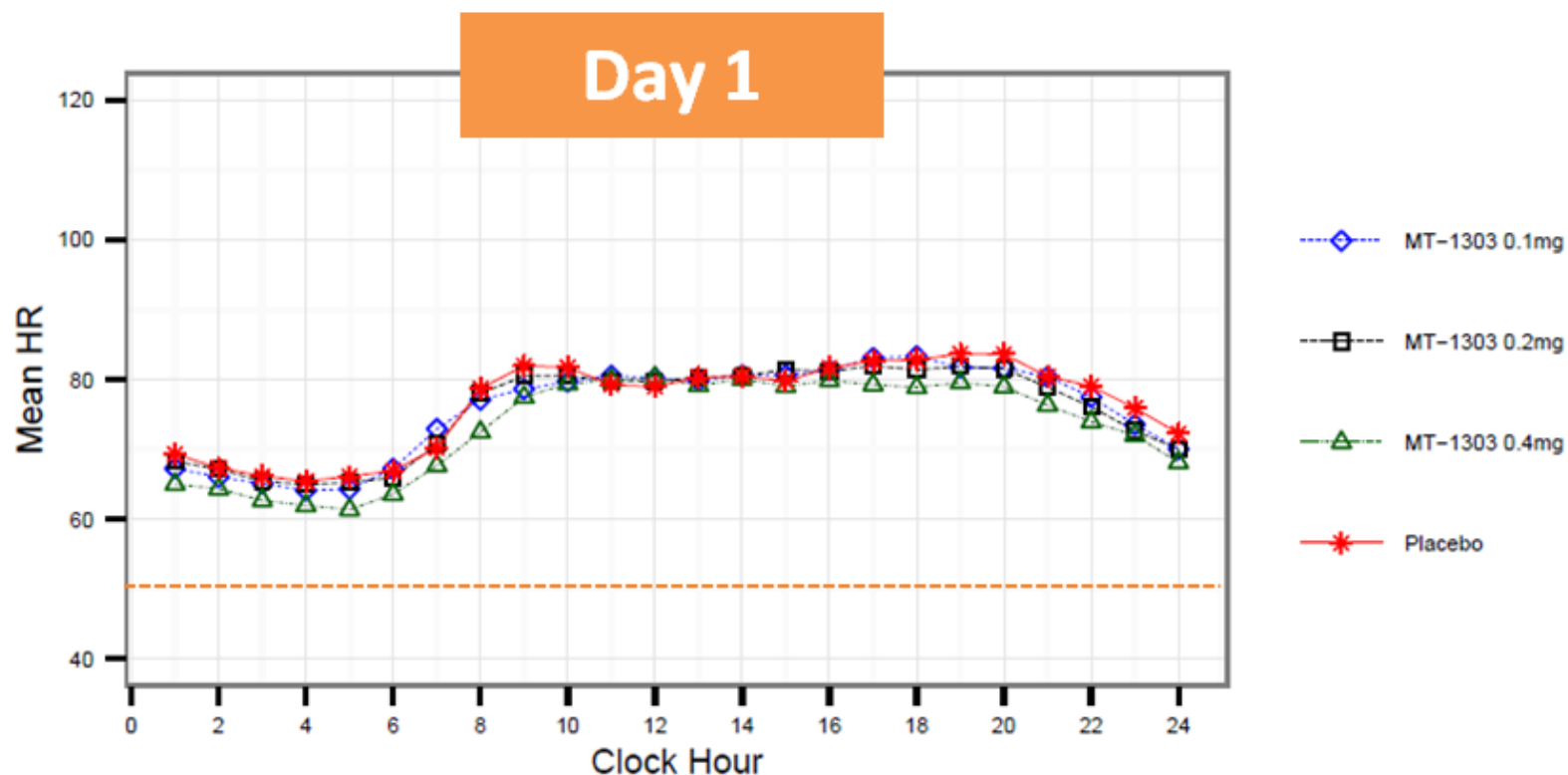
開発コード (適応症)	2014年度決算発表時 のステージ (地域)	進捗／今期の目標
MT-4666 (アルツハイマー型認知症)	P3 (国際共同治験)	国際共同P3中止
MP-214 (統合失調症)	P2b/3 (日、アジア)	症例組み入れ終了 (2015年度中)
MT-2412 (2型糖尿病)	P3(日)	症例組み入れ終了 (2015年度中)
MT-3995 (糖尿病性腎症)	P2(日欧)	早期にPOCの取得
MT-1303 (多発性硬化症)	P2(欧州)	バイオジェン社に導出(日亜以外)
MT-1303 (炎症・自己免疫疾患)	P1(日欧米)	クローン病でP2開始(日欧) バイオジェン社に導出(日亜以外)
季節性インフルエンザ ワクチン	P2(米、カナダ)	2015年度内のP2b開始に向け 開発推進中

Total Number of Gd(+) T1-W Lesions (Weeks 8-24)





Holter ECG – Mean Hourly Heart Rate



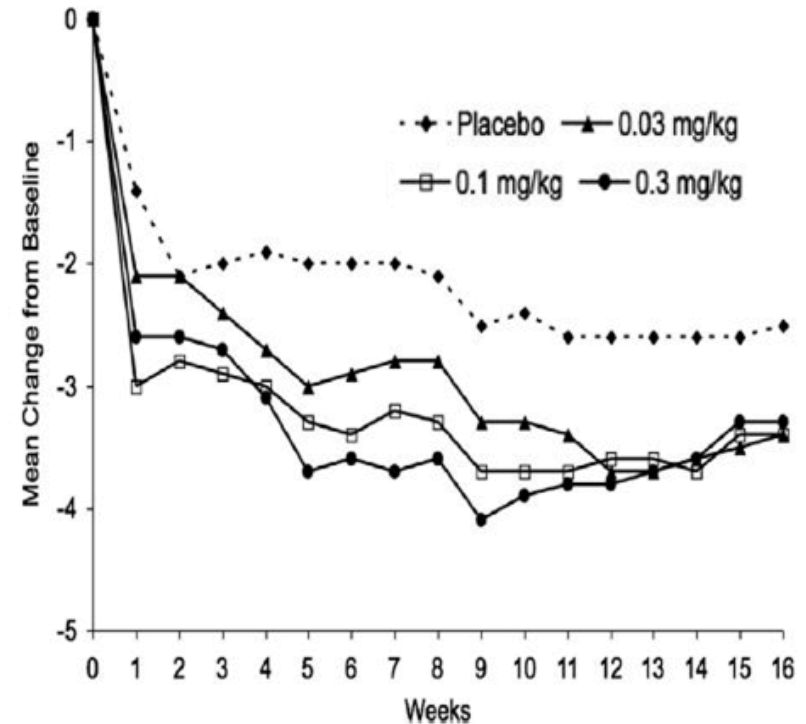
MT-5547 抗NGF抗体

疼痛発生時に分泌されるNGF (Nerve Growth Factor) と結合し、NGFを阻害することにより、疼痛を緩和させる完全ヒト抗体

変形性関節症に伴う疼痛および慢性腰痛を適応症として開発開始

レミケード／シンポニーに続く、
整形外科／リウマチ内科フランチャイズを充実

臨床試験成績(米国PhaseII)



変形性膝関節症患者さんの歩行時痛が軽減することが示された

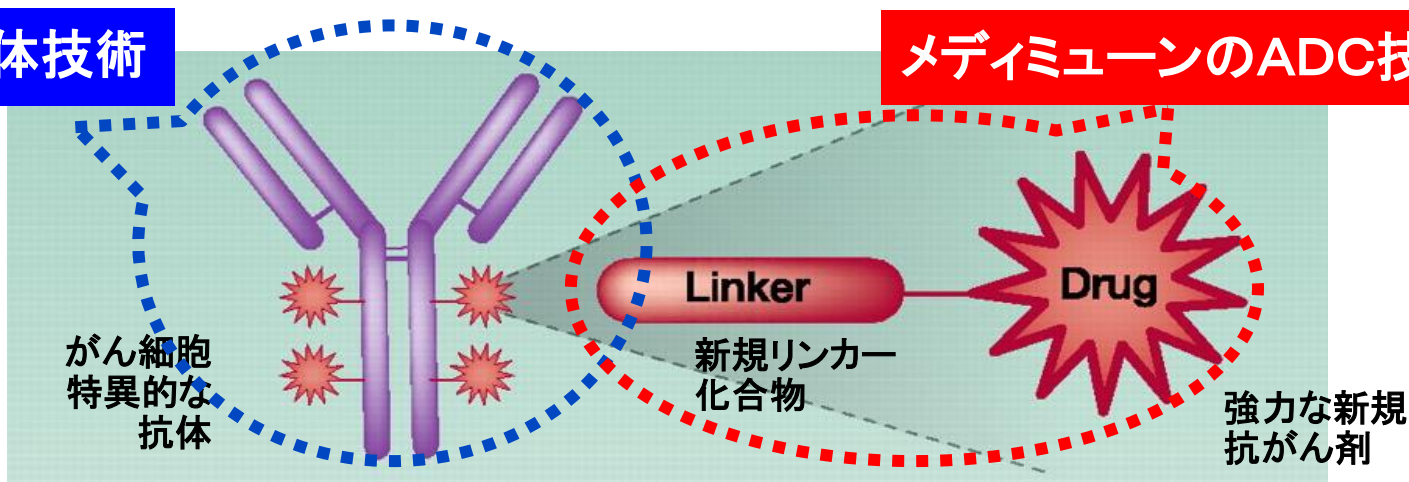
PAIN 155 (2014) 1245-1252

バイオリジクス技術の拡充により、新たな創薬への挑戦

- 抗体薬物複合体 (Antibody-Drug Conjugate : ADC) を用いた抗ガン剤に関する共同研究を、アストラゼネカのバイオ医薬品研究開発部門であるメディミュン社とバイオリジクスに特化した当社の米国研究拠点であるTRLで開始
- オープンイノベーションにより、優れた技術を取り込む
- 一定の開発段階 (P1b以降) は、メディミュン社との共同開発も視野

TRLの抗体技術

メディミュンのADC技術



Teicher B A , and Chari R V Clin Cancer Res 2011;17:6389-6397

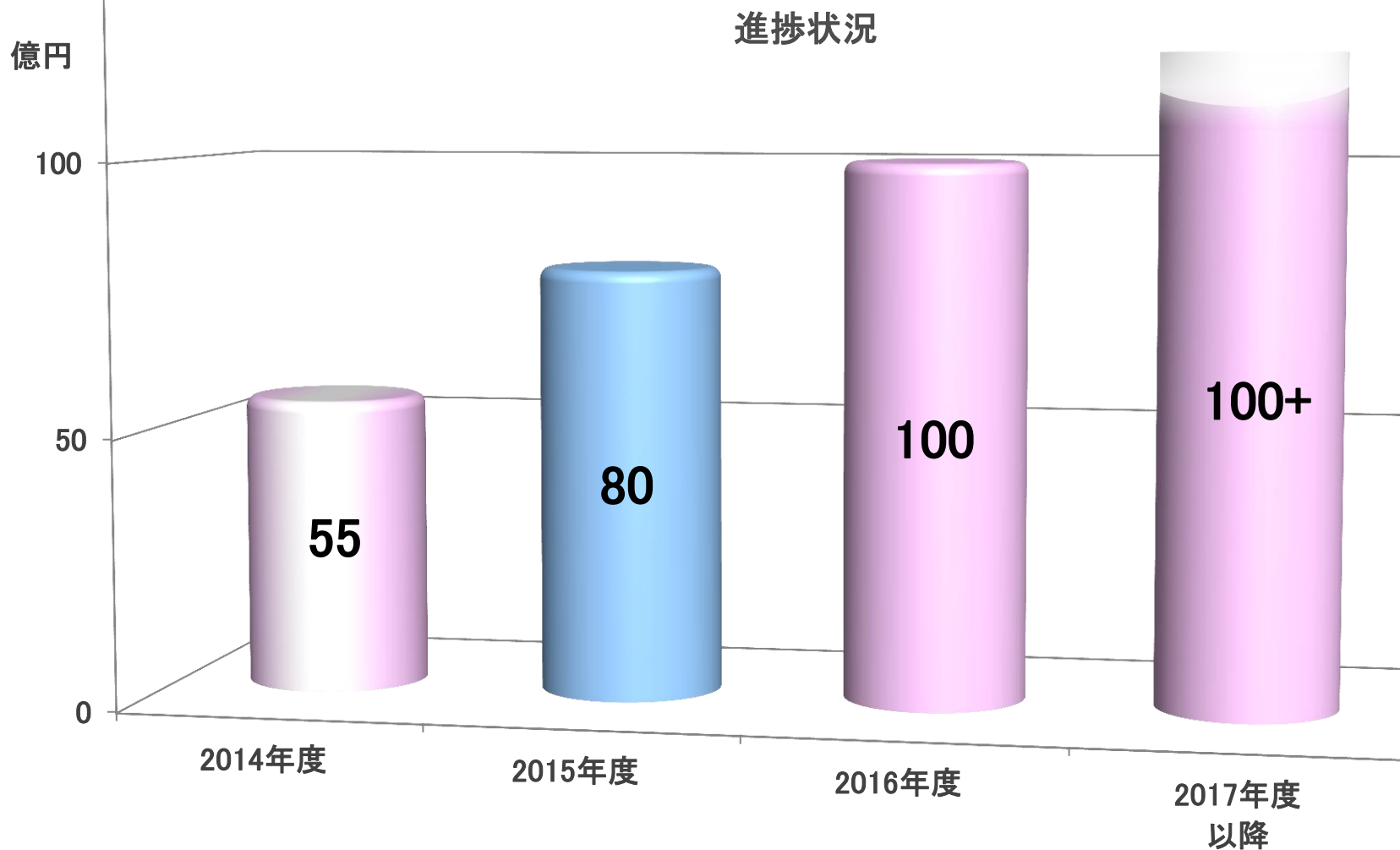
MTPC/TRLが自己免疫領域の創薬研究で培った抗体医薬の経験と技術に
メディミュン社のADC技術を融合した新薬の創製をめざす

トピックス ≪構造改革による費用削減≫



2015年度は、年間80億円の計画に向け順調に進捗中

※ ベンチマークは2012年度経費



株主還元



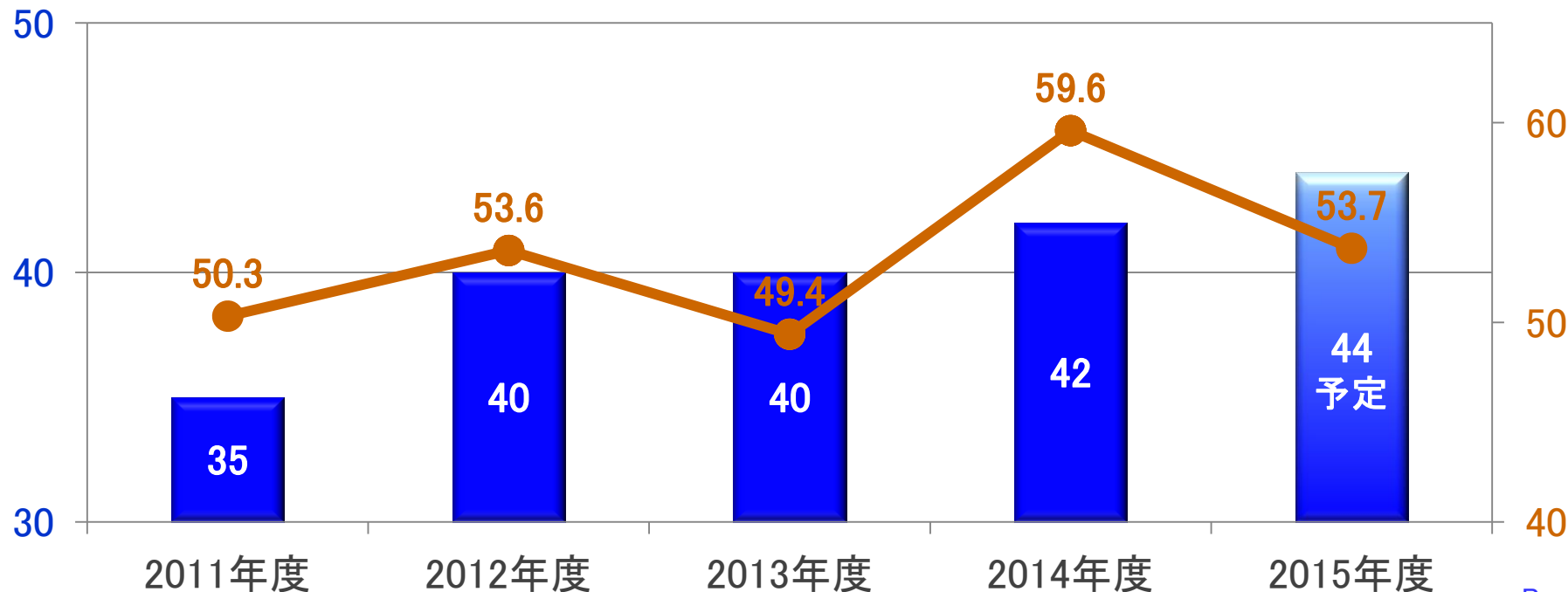
◆ 配当方針

- ◆ 当社は、将来成長のための投資を積極的に実行することにより企業価値の増大を図るとともに、安定的、継続的に株主還元を充実させていくことを基本方針としている
- ◆ 中期経営計画11-15期間では、利益成長に加え、連結配当性向50%（のれん償却前の連結配当性向40%）を目処に引き上げ、株主還元を拡充する

【棒】円

■ 配当金 ●● 連結配当性向

【折線】%



*New **Value** Creation*

「新たな価値を創造しつづける企業」へ

補足資料



セグメント別売上高

【2015年度第2四半期 補足資料】

	2015年度	2014年度	増減		※上期予想	進捗率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	2,017	1,989	+28	+1.4	1,915	105.3
(うち海外売上高)	(509)	(339)	(+170)	(+50.2)	(472)	(107.8)
医薬品事業	2,015	1,987	+29	+1.4	1,913	105.4
国内医療用医薬品	1,473	1,552	-79	-5.1	1,408	104.6
ロイヤリティ収入等	368	279	+89	+32.1	339	108.5
海外医療用医薬品	143	113	+29	+25.8	134	106.4
一般用医薬品	21	22	-1	-3.8	21	100.0
製造受託品	11	21	-10	-49.4	11	95.7
その他	2	2	0	-14.8	2	95.0

※上期予想:2015年5月8日、2014年度決算発表時に公表した予想値
 当社は、2015年9月30日に、売上高について上記予想を修正して公表

国内医療用医薬品 重点品、ワクチン売上高

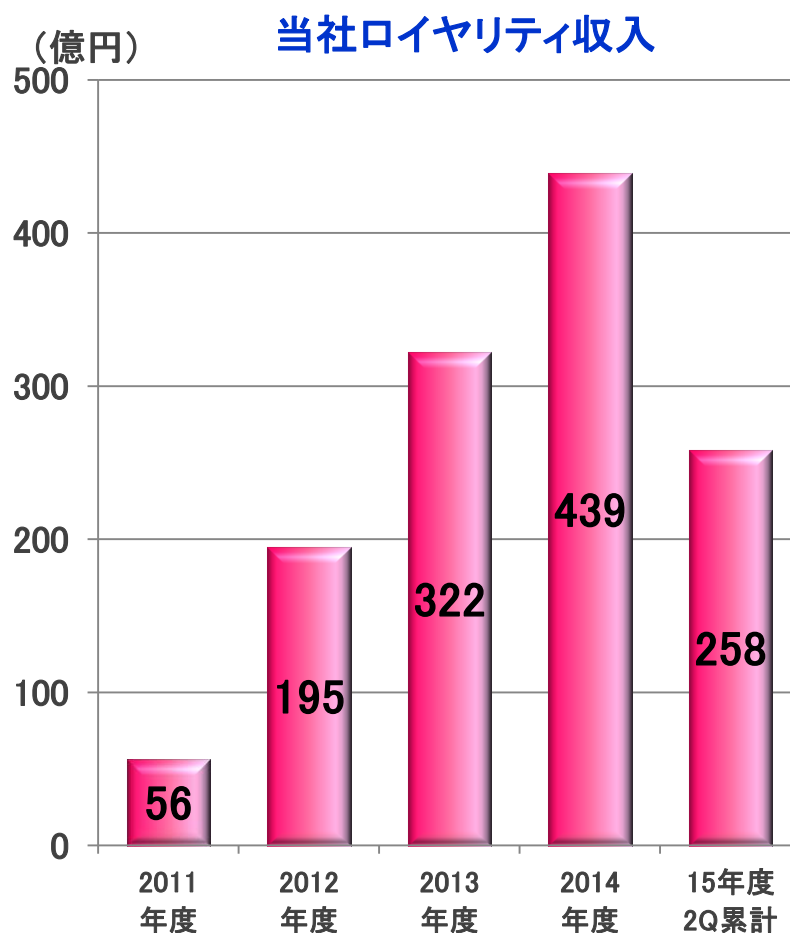
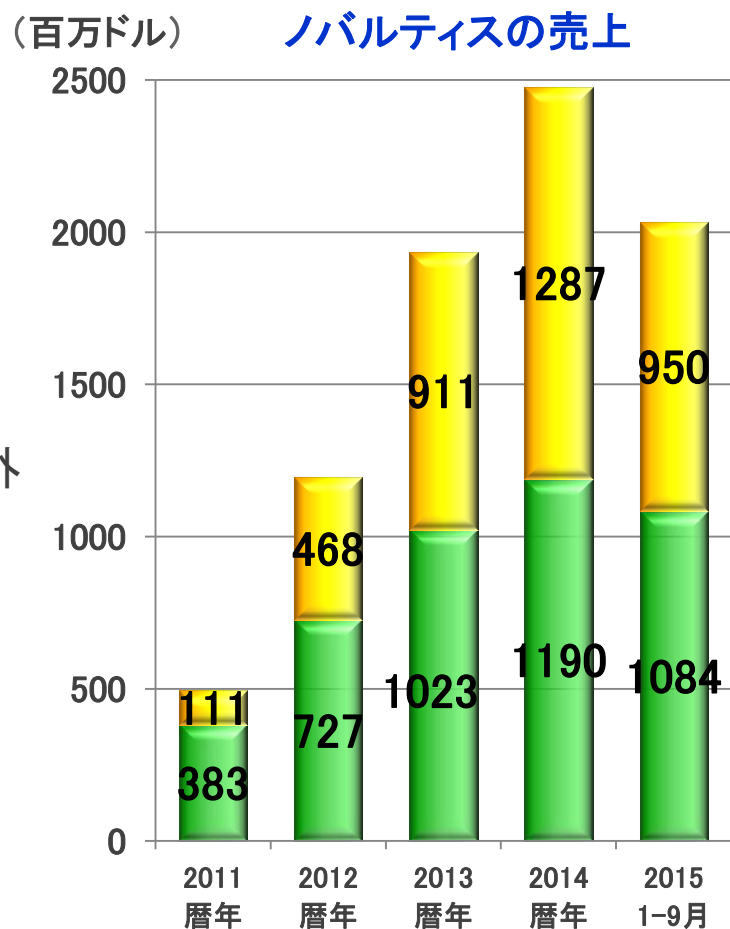
【2015年度第2四半期 補足資料】

	2015年度	2014年度	増減		※上期予想	進捗率
	億円	億円	億円	%	億円	%
レミケード	345	353	-7	-2.1	356	96.9
タリオン	64	61	+4	+5.8	64	100.5
シンポニー	62	50	+11	+22.5	62	99.5
レクサプロ	44	34	+10	+28.5	41	107.0
テネリア(旧スキーム)	37	27	+11	+40.2	45	83.1
テネリア(新スキーム)	29	非開示	-	-	非開示	-
イムセラ	20	15	+5	+32.1	18	108.9
カナグル	0	11	-11	-	8	-
重点品合計 ※※	572	551	+21	+3.9	594	96.3
テトラビック	37	36	+1	+2.5	34	107.5
水痘ワクチン	33	19	+14	+73.0	23	144.8
インフルエンザ	28	9	+19	+212.7	6	462.3
ワクチン合計	145	111	+34	+30.6	106	136.8
重点品・ワクチン合計 ※※	717	661	+55	+8.4	700	102.4

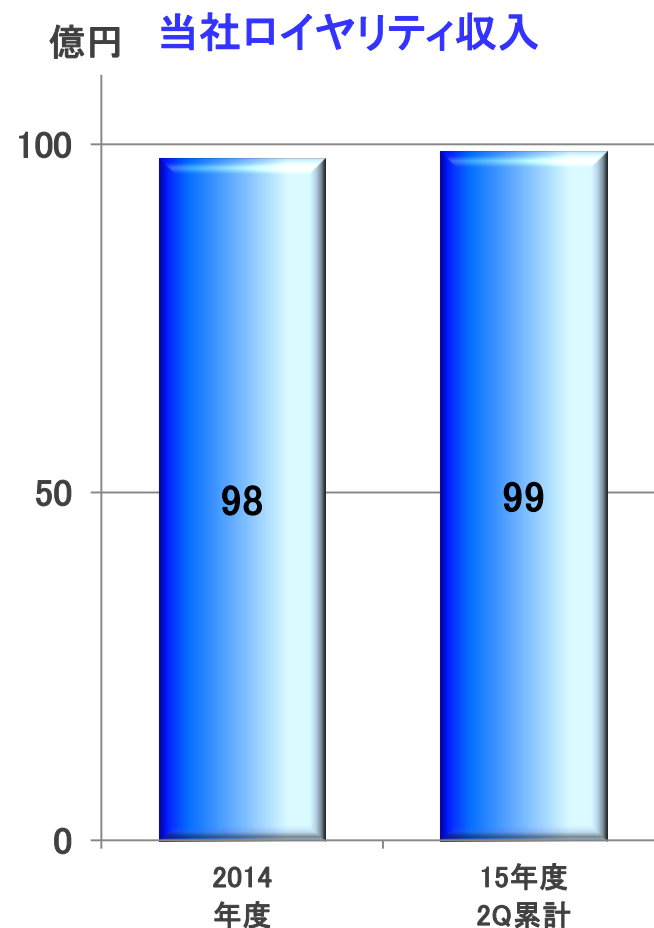
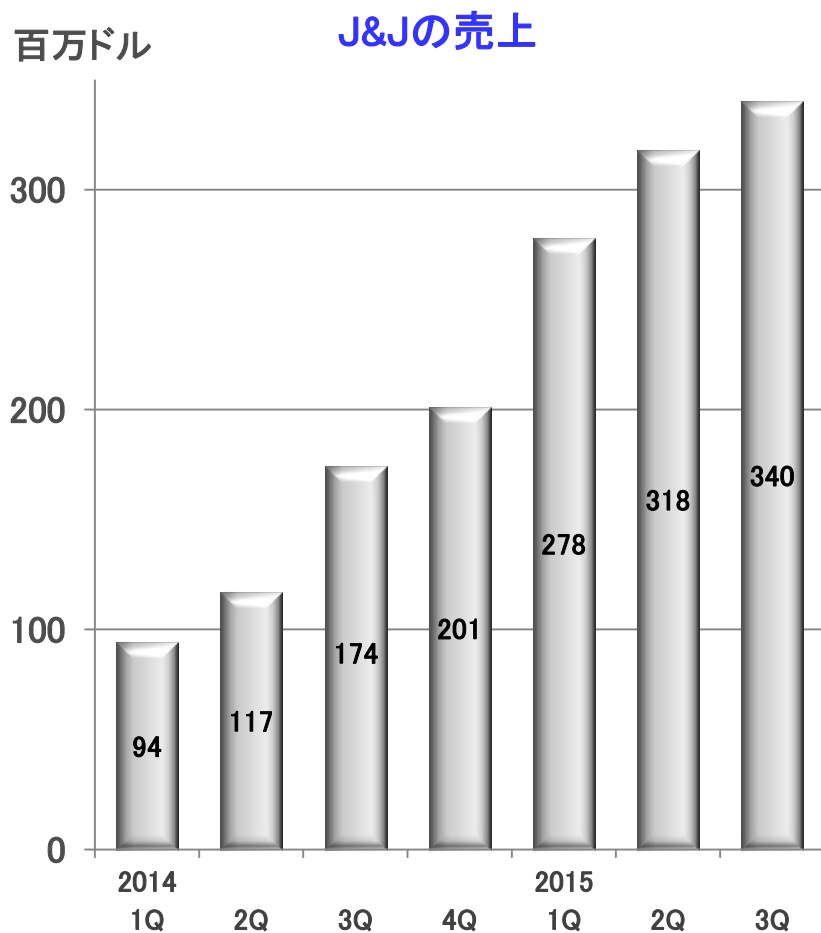
※上期予想:2014年度決算発表時(2015年5月8日)公表

※※テネリア(新スキーム)を除外した合計金額

- ◆ ノバルティスの2015年第3四半期の累計売上高は2,034百万ドル(前年同期比+22%)
- ◆ 当社第2四半期累計のロイヤリティ収入は258億円



- ◆ J&Jの2015年第3四半期の累計売上高は936百万ドル(前年同期385百万ドル)
- ◆ 米国において、2型糖尿病市場で6.3%、うち内分泌医で13%の市場シェアを獲得
- ◆ 当社2015年度第2四半期累計のロイヤリティ収入は99億円



パイプラインの現状(新規薬剤・効能追加)

赤字:2014年度決算発表(2015年5月8日)以降進捗

2015年10月30日現在

フェーズ1試験

- MT-1303(日・欧・米)
炎症・自己免疫疾患
- MP-513(米国)
2型糖尿病
- MT-3995(米国)
糖尿病性腎症
- インフルエンザワクチン
(カナダ)
インフルエンザ[H7N9]予防
- GB-1057(米国)
血液及び体液用剤
- MP-124(米国)
神経系用剤
- MP-157(欧州)
循環器用剤
- MT-0814(日本)
眼科用剤
- MT-8554(欧州)
神経系用剤等

フェーズ2試験

- MT-1303(欧州)
多発性硬化症
乾癬
- MT-1303(欧州、日本)
クローン病
- MP-513(欧州)
2型糖尿病
- MT-3995(欧州、日本)
糖尿病性腎症
- MT-4666(日本)
アルツハイマー型認知症
- MT-2301(日本)
小児Hib感染予防
- インフルエンザワクチン
(カナダ)
インフルエンザ[H5N1]予防
- インフルエンザワクチン
(米国、カナダ)
季節性インフルエンザ予防

フェーズ3試験

- レミケード(日本)
小児・クローン病
小児・潰瘍性大腸炎
- イムセラ(国際共同治験)*1
慢性炎症性脱髄性
多発根神経炎(CIDP)
- MT-2412(日本)
2型糖尿病
- カナグル(国際共同治験)*2
糖尿病性腎症
- MP-214(日本、アジア)
統合失調症
- テラビック(日本)
C型慢性肝炎
(フェロン併用)

申請

- レミケード(日本)
難治性川崎病
乾癬・増量
- TA-650(台湾)
クローン病
潰瘍性大腸炎
小児・クローン病
小児・潰瘍性大腸炎
- TA-7284(台湾)
2型糖尿病
- MP-513(インドネシア)
2型糖尿病
- トリビック(日本)*3
百日せきジフテリア
破傷風感染予防
(2期接種)
- MCI-186(韓国)
筋萎縮性側索硬化症

承認

- タリオン(日本)
小児・アレルギー性鼻炎
小児・蕁麻疹、皮膚疾患に
伴うそう痒
- ラジカット(日本)
筋萎縮性側索硬化症
- レミケード(日本)
腸管型・神経型・血管型
パーचेット病

治療対象疾患

- : 自己免疫疾患 ■ : 糖尿病・腎疾患
- : 中枢神経系疾患 ■ : ワクチン ■ : その他

*1 : 日本はノバルティスファーマと共同開発、海外はノバルティスファーマに導出

*2 : 治験依頼者: ヤンセン リサーチ アンド デベロップメント

*3 : 阪大微生物病研究会と共同開発

主な導出品 (フェーズ3以降)

フェーズ3

- FTY720(国際共同治験)*1
CIDP
- TA-7284/Met XR合剤(米国)
2型糖尿病
- TA-7284(国際共同治験)*2
糖尿病性腎症

注意事項

本資料に記載した一切の記述内容は、現時点での入手可能な情報に基づき、一部主観的前提をおいて合理的に判断したものであり、将来の結果はさまざまな要素により大きく異なる可能性がありますので、ご了承ください。